ホームページが新しくなりました。ＱＲコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和４年度　附属小学校だより

スマイル²ふぞく

第７号　令和４年１１月３０日（水）　校長　古野　祐一

附属の使命「秋研」発足！

今年度，新たに立ち上げた授業づくり研修会「秋研」を，１１月１８日（金）の午後に，長崎県下の先生方を対象に開催しました。

本校の使命・役割は，「教育実習」・「先進的研究の推進」，そして，「県下の学校・先生方への貢献」です。今回はこの三つ目の「地域貢献」を目的に実施しました。総勢１２０名の参加申込があり，活況の中に終えることができました。以下に掲載していますのが，県下に発出した研修会の案内チラシの一部です。

現在長崎県では，毎年２００人を超える小学校教員が新規採用されています。若い先生方が，２０代にひしめいている状況です。若手教員にとって，自分の授業づくりや学級経営と，様々に比較しながら学べる本校のような存在は大変貴重です。附属教員の指導はもとより，子どもたちの発言する姿・内容や課題解決に向かう学びの姿は，参観の先生方の向上心に火を付けます。

参観者の声

・参観させていただいた授業，どちらも子どもたちが主体的に考え，話し，まとめていました。教師の関わりとは？と自分に問い直すきっかけとなりました。ありがとうございます。

・子どもたちがとても良く発言していた。ガイドの子も的確に進行していた。１年生の時から繰り返しの積み重ねと，子供にどんどん任せていいんだと感じた。教室の掲示や教師の立ち位置など勉強になった。

本校職員も附属小が担う崇高な使命・役割を自覚し，次のように所感を残しています。

・「苦手意識を持たれている先生方にも，必要なことをシンプルに提案することで，授業づくりの困り感を提案出来ると考えた。」

・「秋研を通して学んだことは，組織にとって新しいことを想像することは大切だということ。」

この頼もしいメンバーが一丸となって，２／３(金)に控えている毎年恒例の教育研究発表会「冬研」に向けて邁進しています。

事前の打ち合わせで議論する本校職員。

複式の国語の授業を参観する先生方。

協議会でタブレット活用の説明をする本校職員。

長大の木村先生の講演に聞き入る参観の先生方。

※裏面に続きます！

笑顔の支え

明日から師走，そろそろ冬休みに故郷への帰省を予定されている御家庭もあるのではないでしょうか。今コロナ禍とも重なり，３人に１人は帰省できる地元がなく，実家があっても全く帰省できない人が３割を超えているという調査結果もあり，故郷を求めるニーズが高まっているそうです。私の地元は長崎ですが，故郷と言えば，毎年夏に訪れていた母の実家がある五島の海を思い浮かべます。

附属小学校にも仲間と来校し，当時の様子を語り合う卒業生の姿があります。また，毎年本の寄付をいただいたり，珍しい植物の苗をいただいたりと，卒業生の保護者からも大切にされています。先日も，２７年前の卒業生の保護者の方が来校され，当時の思い出を懐かしみ，嬉しそうに語られました。

心のふるさと

そのような中，先日「校歌の歌詞とともに，作詞者，作曲者のお名前を教えていただくことは可能でしょうか。」というメールをいただきました。校歌の歌詞と校舎の画像を返信したところ，以下の返信をいただきました。

> ありがとうございました。明るい校歌が大好きでした。小学校１年生の時に意味も分からず，ひらがなや耳で，まる覚えしたまま6年間歌い続けてしまったのだなあと改めて認識しました。昭和55年小学校を卒業後，少し経って神奈川に越しましたので長崎の思い出のほとんどは附属小学校です。今後とも小学校のこと，よろしくお願いします。

卒業生にとって，保護者にとって附属小学校は特別な学校，心の故郷であると改めて実感しました。

教頭　橋田　晶拓

北斗の学び

失敗を積み重ねて

11 月 15 日（火）の受納式で，古野校長は，子どもの努力を称え，次のように話しました。

「受賞した皆さんは，多くの失敗を乗り越えて努力を積み重ねてきました。失敗を乗り越えるには勇気がいりますが，これからも何度も挑戦してほしいと思います。皆さんの周りには，数多く失敗をしている人がいます。それは，附属小の先生たちです。」

私たち北斗の教師は，よりよい授業を創るために数多くの失敗を積み重ねています。本校に長くお世話になっている私など，どれだけ失敗を積み重ねてきたか計り知れません。

現在，各教科等部の研究理論が子どもにとって有効か，通称「実験授業」を行っています。実験授業で望ましい検証結果が得られればいいのですが，うまくいかないこともあります。一番多い失敗は，「子どもの思いと教師の思惑」にずれが生じることです。「きっとこうなるはずだ。」という教師の論理に子どもを当てはめようとしても，授業のねらいを達成することができないのです。今年度練り上げてきた理論を手直しするだけならよいもので，全面的な見直し…ということも少なくありません。

失敗を積み重ねながら創っていく研究は大変ではあるものの，笑顔あふれる子どもの姿を見た時の喜びは，とても大きいです。北斗の教師は，試行錯誤を続けながら，研究に没頭しています。

主幹教諭　吉田　公悦

潜入！附属小リアルスコープ

臨機応変が求められるこの時代に

この冬は，コロナ第８波に警鐘を鳴らす報道もあり，これまでに引き続き，社会全体が一生懸命に回ろうと努力をしています。

これは私たち附属小職員も同様です。自身や近親者の健康状態で出勤停止を余儀なくされる場合もあります。更に，様々な研修会や出前講座などの校外業務と重なった場合，多くて 10 名近くの職員が一気に不在となることもあります。そのような時は，全職員の団結が普段以上に一気に高まります。「代教計画」と呼ばれる臨時時間割表の担当職員の欄に，様々な職員の名が連なります。時間割を調整しながら授業の空いている職員を確保し，学年を超えて一致団結して子どもたちを見守るのです。給食時は，食物アレルギー表を基にアレルギー対応についても共通理解を図るなど，徹底して安全対策を講じています。

私も，これまで関わりのあまり多くなかった学年に入ることが度々ありますが，その度に子どもたちの職員に負けないくらいの団結を目にし，嬉しい発見となっています。北斗の子の，人としての高まりを感じているところです。

教務主任　才木　崇史